

水稲用 初・中期一発処理除草剤

# テツシン®

1キロ粒剤 豆つぶ®250 フロアブル

エフィーダ®  
(茎葉白化作用)



ピラクロニル  
(素早い効果)



ベンスルフロンメチル  
(幅広い草種に対応)

ドローン散布



1キロ粒剤、豆つぶ®250  
フロアブル

田植同時処理



1キロ粒剤、フロアブル

湛水周縁散布



豆つぶ®250

水口施用



豆つぶ®250、フロアブル

®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

水田雑草よ、はびこるなかれ。



NICHINO

日本農薬株式会社



# テツシン

1キロ粒剤  
豆つぶ250  
フロアブル

- 有効成分：ピラクロニル…2.0% (1キロ粒剤)、8.0% (豆つぶ)、3.7% (フロアブル) フェンキノトリオン…3.0% (1キロ粒剤)、1.2% (豆つぶ)、5.6% (フロアブル) ペンシルフロメチル…0.75% (1キロ粒剤)、3.0% (豆つぶ)、1.4% (フロアブル) 鉱物質微粉等…94.25% (1キロ粒剤)、77.0% (豆つぶ)、89.3% (フロアブル)
- 安全性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すいう通称)

## 特長

- ノビエ、広葉雑草、カヤツリグサ科の雑草に卓効。
- 安全性の高い3成分を配合し、即効性と長期効果を発揮します。
- SU剤抵抗性雑草にも高い除草効果を示します。

## 適用雑草及び使用方法

2025年10月現在の登録内容

\*各有効成分を含む農薬の総使用回数：ピラクロニル2回以内、フェンキノトリオン2回以内、ペンシルフロメチル2回以内

### 1キロ粒剤 (農林水産省登録 第24801号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ オモダカ、クログワイ コウキヤガラ、ナガエツルノゲイトウ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg	1回※	田植同時散布機で 施用
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽前期～ ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布

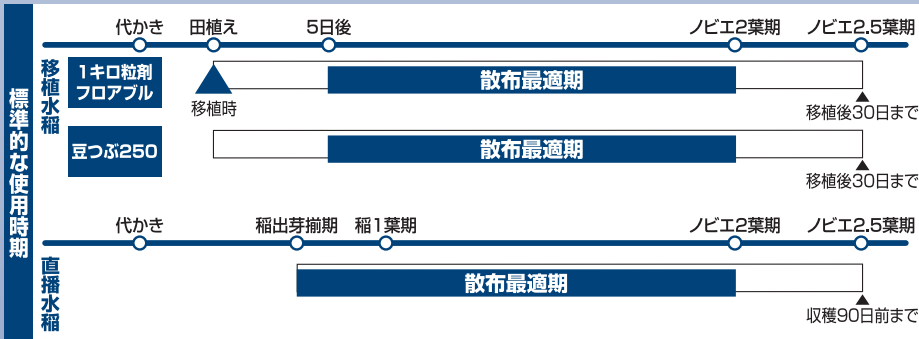
### 豆つぶ250 (農林水産省登録 第24813号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ セリ、多年生広葉雑草 ナガエツルノゲイトウ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	250g	1回※	湛水散布、 湛水周縁散布、 水口施用 又は 無人航空機による散布
		稲出芽前期～ ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽前期～ ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機による散布

### フロアブル (農林水産省登録 第24802号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ セリ、オモダカ、クログワイ コウキヤガラ、ナガエツルノゲイトウ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	500ml	1回※	田植同時散布機で 施用
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで			原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽前期～ ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			原液湛水散布 又は 無人航空機による滴下

## 上手な使い方



●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2025年10月現在の知見に基づき作成しています。

## ■使用上の注意(抜粋)

### 【共通】

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで(豆つぶ250は1葉期まで)、クログワイ、コウキヤガラは発生始まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、シズイは草丈30cmまで(豆つぶ)、ミスガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、ナガエツルノゲイトウは再生始まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期です。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ(豆つぶ)は発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 苗の植付けが均一となるように、代かき及び植付作業はいいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特にいいに行ってください。
- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
  - 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
  - 活着遅延を生じやすい異常低温の時
  - 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 軟弱苗を移植した水田
  - 極端な浅湛水の水田および浮き苗の多い水田
  - 植穴の戻りの悪い水田
- 直播水稲に使用する場合は以下の点に注意してください。
  - 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
  - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
- 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけてください。
- 散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないでください。
- その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用の場合は十分に注意してください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

### 【1キロ粒剤】

- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布してください。

### 【1キロ粒剤・豆つぶ250】

- 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
  - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
  - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
  - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整してください。
- 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離しては場内に散布してください。
- 水源地、飲料水などに飛散、流入しないように十分注意してください。

### 【豆つぶ250】

- 散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布してください。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布を避け、本田内で水田全面に散布してください。
- 吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早め使用してください。

### 【豆つぶ250・フロアブル】

- 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 水口に対して向かい風が吹いている場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用をさけてください。

### 【フロアブル】

- 使用に当たっては、使用前に容器をよく振ってください。
- 散布の場合は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)のまま水田全面にゆきわたるように散布してください。
- 無人航空機で滴下する際は以下に注意してください。
  - 滴下は使用機種の使用基準に従って実施してください。
  - 滴下に当たっては散布装置のノズルを取り外してください。
  - 作業中、薬液の漏れないように機体の配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
  - 機体の配管その他散布装置への薬液の回着を防ぐため、薬液をタンクに投入した後は、速やかに滴下を始めてください。
  - 隣接するほ場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、他の植物に影響を与えないように風の影響等を十分考慮して滴下してください。
  - 水源地、飲料水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
  - 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
  - 滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布に使用しないでください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

LINE公式アカウントはじめました!  
友だち募集中 最新情報をLINEで配信!  
@nichino

**NICHINO** 東京都中央区  
京橋1丁目  
日本農薬株式会社 19番8号  
TEL:0570-09-1177 URL:https://www.nichino.co.jp/  
2025年10月作成版(Z)KF12510S